

ノン・ドナー

NON! DONOR

脳死・臓器移植反対



人が死んだら、本来その体はどのような状態になるのでしょうか？

心臓が止まり、血液が流れず動かなくなった体は、やがて冷たくなり、硬直してきますね。

ところが、脳死・臓器移植が行われる「脳死」という状態では、心臓は動き、体は柔らかく温かいままで。

大本では、脳死からの臓器移植に反対しています。

なぜなら、「脳死は、人の死ではない」からです。



みろく博士



「脳死状態からの臓器提供」拒否 意思表示カード

私は「脳死状態」からの臓器提供はしません

本人署名(自筆): _____

家族署名(自筆): _____

連絡先: _____

※ご記入は適性ペンで記入下さい

発行元 人類愛善会生命倫理問題対策会議
〒621-0851 京都府亀岡市荒塚町内丸1番地
<http://www.jinruiaizenshinbun.jp/>

「脳死状態からの臓器提供」拒否 意思表示カード

NON! DONOR

ノン・ドナーカード

「脳死」は人の死ではありません
「脳死状態」からの臓器提供はしません
最善の救命救急治療を望みます

「ノン・ドナーカード」
(「脳死状態からの臓器提供」拒否意思表示カード)

ノン・ドナーの
意思表示を!

ノン・ドナーカードは「脳死を人の死とは考えない。だから、臓器提供はしません」と、明確に意思表示するためのカードです。

はつきりと意思表示していなければ、事故や病気で「脳死状態」に陥った時、家族の同意だけで臓器が提供されてしまいます。

保険証や運転免許証記入欄などにも臓器提供をしない旨を明記するとともに、このノン・ドナーカードにも署名し、カバンや財布などに入れ、常に携帯しましょう。また、ご家族に「臓器提供はしない」旨を伝えておきましょう。



気軽に活用できる
「ノン・ドナーシール」

カード申込先

ノン・ドナーカードやシールをご希望の方には、大本本部の外郭団体、人類愛善会から無料で送付します。左記の事項を明記してお申し込みください。

- 枚数
- 送り先(〒・住所・氏名・電話番号)
- パンフレット同封の可否

〔申込先〕

人類愛善会事務局

住所 〒621-0851

京都府亀岡市荒塚町内丸1

大本本部内

電話 0771(56)9073

FAX 0771(25)0061

大本HP <http://www.oomoto.or.jp>

※HPの「大本の活動」ノン・ドナーカード」のページにある、申し込みフォームからお申し込みください。



大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

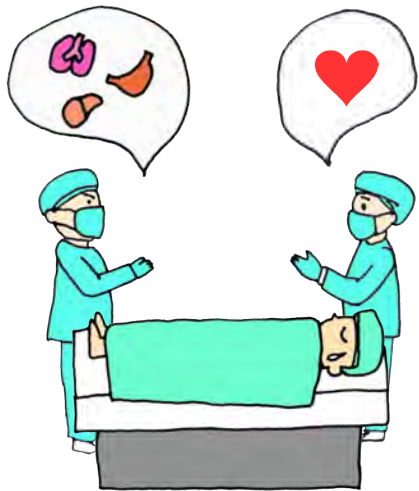
東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>





例えば、打撲や発熱で脳が大きなダメージを受けたとき、脳の腫れをおさえるため、体内の水分を減らす方向で救命治療が行われます。

一方、臓器提供のためには、体内の水分を十分に保ち、摘出臓器を保護する処置がとられます。つまり、臓器提供を前提にすると、救命治療とは反対の処置がなされてしまうのです。

目の前の命を救うのか、それとも、その命を「死にゆくもの」とみなして臓器を摘出する準備を進めるのか。一刻を争う救命医療の現場で、その判断は患者の家族に委ねられます。

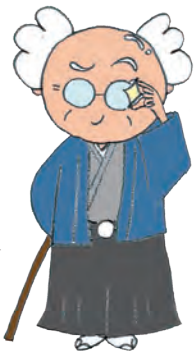
救命治療か、臓器移植か

脳死ってなに？

「脳死」とは、頭部の激しい外傷、脳内出血などが原因で、脳細胞の壊死が進み、脳全体の機能が失われ、元に戻らなくなった状態のことをいいます。

脳死患者は人工呼吸器の助けで呼吸していますが、心臓は自力で鼓動しています。体温も正常で、見た目は眠っているような状態です。髪はもちろん、ヒゲや爪も伸び、汗もかき、排便もします。また、脳死状態で出産した女性や、家族の呼びかけに応え、涙を流した子供の例もあります。

脳死状態の人は、重篤な状態にはありますが、生きているのです。



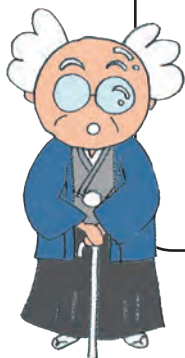
NON! DONOR

法律上の死

平成二十二年より施行されている現在の臓器移植法では、脳死を一律に人の死と定め、本人の拒否がない限り、家族の同意だけで臓器を提供できると規定しています。

しかし、目の前で眠るように横たわる温かい体を見て、患者の家族がそれを「死体」と思えるでしょうか。

移植に必要な臓器を確保するために作られた「脳死」という不自然な死は、決して認められるものではありません。



人の死っていつ？

人の「死」について、大本教祖の一人、出口王仁三郎聖師は、次のように示しています。

「肺臓、心臓の活動が全く止む時こそ、霊と肉とがたちまち分離する時である」

「人間の精霊即ち本体は、肉体分離後といえども、なおしばらくはその体内に残り、心臓の鼓動全く止むを待って、全部脱出するのである」

（『霊界物語』第四十七巻・第十一章）

このように、大本では心肺停止の時が人の死であると考えています。

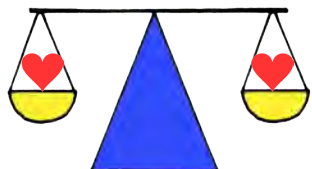


愛の行為？

脳死・臓器移植は、移植を待つ人と、脳死状態にある人の両者があって成り立ちます。一方の人を救うために、もう一方の人の命を絶つことが正しいことなのでしょうか。

どちらにも等しく「尊い命」があり、それぞれに優劣はつけられません。また、どちら側の家族も、家族を愛する気持ちに変わりはないのです。

脳死・臓器移植は、一部では「愛の行為」といわれているようですが、臓器提供を期待することは、「自分さえ助かれば、他人の命はどうでもよい」という、利己主義的な行為ともいえます。はたしてこれを、「愛の行為」といえるのでしょうか。



脳死・臓器移植反対！

大本では、出口王仁三郎聖師の教え（上記など）にもとづいて、「脳死は人の死ではない」と主張し、脳死・臓器移植に反対してきました。

平成十一年二月、高知で実施された日本初の脳死・臓器移植に対し、厚生大臣などに声明文を送付。同年五月には脳死・臓器移植反対の署名活動を全国各地で展開しました。翌年の平成十二年には、およそ八十七万人分の署名を集め、厚生省に提出しています。

現在も、脳死・臓器移植に反対する意思表示カード（ノン・ドナーカード。次ページ参照）を街頭で配布するなど、全国各地で活動を行っています。

